

会 議 録

1 会議名

平成30年度 第1回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 平成29年度地域活動支援事業の完了について（公開）

(2) 他団体や他地域との連携について（公開）

3 開催日時

平成30年4月25日（水） 午後5時58分から午後7時14分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：高宮宏一（会長）、村田敏昭（副会長）、伊崎博幸、石野伸二、牛木喜九、
桑山敏男、齋藤邦博、高橋敏光、竹内恵市、土屋博幸、永野起男、
山口茂幸、吉村清正

・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【小林主任】

・川住副会長、伊藤委員、西条委員を除く13名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は高宮会長が務めることを報告

【高宮会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：土屋委員、永野委員に依頼

次第2「議題等の確認について」に入る。

事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

—次第3報告（1）平成29年度地域活動支援事業の完了について—

【高宮会長】

次第3報告（1）「平成29年度地域活動支援事業の完了について」に入る。

事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料No.1により説明。

【高宮会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

—次第4議題（1）他団体や他地域との連携について—

【高宮会長】

次第4議題（1）「他団体や他地域との連携について」に入る。

前回の会議では、金谷区の活動団体との意見交換について協議し、「住民の暮らしをサポートする団体」のうち、各町内会長と、正善寺線バス利用促進協議会を除いた8団体を対象にすることが決まった。意見交換の詳細について、正副会長で決定したため報告する。開催日時は、6月20日（水）午後6時30分から、時間は1時間30分程度、会場は、福祉交流プラザ2階第1会議室、参加者については、1団体2～3名程度をお願いする予定。各委員への案内は、後日送付する。

意見交換会では、団体の方から、普段の活動の中で感じている課題や、日頃思っ

ていることなどについて話してもらおう。その中で出された意見等は、今後の地域協議会の議論の中で生かしていきたい。

当日は、各団体の方から意見を聴くことが中心になると予想されるため、本日は意見交換会に向けて委員が思うことについて話し合いたいと考えている。これについて質疑を求める。

【石野委員】

金谷分団の名称は、11分団では。

【山口委員】

11分団という名称ではなくなった。金谷分団。

【石野委員】

合併してから変わったのか。

【吉村委員】

案内について確認だが、「ご都合いかがでしょうか、ご出席ください」ではなく、「こういう企画なので、2～3名でおいでください」という出し方か。

【高宮会長】

そのとおり。意見交換では、普段の活動の中で感じている課題、日頃思っていることなどを聞かせてほしい、ということ。

【吉村委員】

だから来てほしい、ということか。分かった。

【高橋委員】

他の団体に聞く予定はないのか。その団体のほとんどは、市や警察などの「公（おおやけ）」の場所とつながっている団体ばかりだが。

【高宮会長】

「住民の暮らしをサポートする団体」に的を絞って決めた。

【高橋委員】

今回は、その団体だけに案内するのか。

【高宮会長】

会場の問題もあるので、今回決めた団体から2～3名程度を呼びたいと考えてい

る。

【高橋委員】

その団体だけで終わりでもよいが、今後また何かあれば他の団体を呼ぶのか。

【村田副会長】

前回皆さんに諮って結論が出た団体がこれである。それ以降どうするとか、他の団体も追随するか、といったような議論はしていない。これで終わりという話もしていない。当座は、「住民の暮らしをサポートする団体」のうち、町内会と正善寺バス利用促進協議会を除く団体に声をかけ、来てもらうことで皆さんの賛同を得た。8団体で2～3名となると、20名前後。会場が狭いということもないと思う。その結果によって、あまり実りがなかった場合は、高橋委員のとおり、他の団体にも波及していくことになるだろうし、結果を見てから出てくることでもあり、先のこととは皆さんに諮っていない。

【高橋委員】

それならそれでよい。

【山口委員】

進め方は、団体から問題があると提起して、我々がそれに対して委員として意見を述べるということか。

【村田副会長】

意見は述べなくてもよい。意見を聞かせてほしいという考え方でよい。私たちが何かできるということではない。団体の悩みや課題といったことを広く聞く。いろいろな団体があるため、町内会長を務めている方はある程度把握できているかもしれないが、そもそもの発端は、どんな団体がこの地域にあるのか、ということ。そういったところから聞いてみる。そこで委員も見聞を広めると同時に、その団体に問題点があれば聞かせてもらう。それを共通のテーマにしていくかどうかは、これからの協議ではないかと思う。

【山口委員】

それに対して、「私ならこう思う」というような会話にはならないか。

【高宮会長】

意見交換であるため、そのような会話でもよい。村田副会長のとおりに、我々がその会の全てを把握していればよいが、分からない。その中で、金谷区にとってどうかということについて、我々委員の意見も出してよい。8団体を一つの足掛かりにする。その団体の課題を金谷地区にどう生かせるか、じっくり話し合えばよい。

【土屋委員】

今、この時間は私たちに何を求めているのか、分かりづらい。意見交換会では委員はそんなに話せないため、今ここで意見を述べてほしいということなのだろうが、団体からまだ話も聞いていないため、どういった意見を述べたらよいか分かりづらい。

【高宮会長】

ざっくばらんに。私も経験がないため、「こういうことを聞いたらどうか」と、今日この時間に話し合いたい。

【石野委員】

課題や問題点について、具体的に聞いたらよい。それが分からなければ、私たちも討議にならない。そこからのスタートだと思う。

【高宮会長】

一つの例だが、交通安全協会飯支部、灰塚支部がある。交通安全期間には立哨をしている。皆さんも見ていると思うが、それに対してよいか悪いか、というのもある。それから、民生委員・児童委員。今高齢化が進行している中で、皆さんが実際に自分の町内を見た時に、「そういった活動はどうか」、「こういったこともあってもよいのではないか」という意見でもよい。あるいは、どういった活動をしているのか聞く。それから課題などを聞きながら、実際に民生委員・児童委員が働いている中で、「こうしてほしい」、「ああしてほしい」など意見を言ってもらえばよい。それから金谷地区運動普及推進協議会、あるいは食生活改善推進委員。各町内に積極的に来てもらい活動している。そのようなところも踏まえて行えばよい。8つの団体に聞いてみたいことを、この場でも出してもらえばよい。

私の場合、金谷地区運動普及推進協議会、あるいは食生活改善推進委員、上越市消防団金谷分団については全く知識がない。食生活改善推進委員については、会社

に勤めているとないが、年に1回市の健康診断があるが、その会場に来て、カロリーはこうだというような説明をしている。それをどう地域に広めていくかということも課題になるのかと思う。

思ったことを言ってもらってよい。それを我々地域協議会として質問しよう、意見交換しよう、ということではいかと思う。

【山口委員】

今この場では、我々が意見交換会に対して何を求めるか、そういうまとめをしようとしているのか。

【高宮会長】

前回の会議で、対象にする団体が決まった。そういったことを基に、皆さんの考え方を話してほしい。

【石野委員】

意見交換会の基本的なスタンスは、フリーディスカッション。その中から私たちは問題点を見出す。団体から話を聞いていないため、私たちも分からない。そこからやりとりする。

【土屋委員】

私が知らない団体もある。委員の中には町内会長もいるため、この団体のことはよく知っているなど、参考になる意見があれば聞かせてもらいたい。委員全員が全く知らない団体であれば、当日話を聞くしかない。

【石野委員】

町内会長でも、実態や実情について踏み込んで分かっている方はいないと思う。

【村田副会長】

平山町内は、上越交通安全協会飯支部の支部長をしている。つい先日も総会があった。飯支部は、御殿山、上昭和町、平山、大貫、飯の5つである。

【石野委員】

上中田から北は全部入っているだろう。

【竹内委員】

飯校区全部。

【高橋委員】

14町内。

【村田副会長】

中部は平山と大貫が飯地区に入っている。あとは全て北部。昔からそのような線引きがされている。

【高橋委員】

飯の駐在所は駅前の交番に吸収されたが、飯の駐在所の管轄内。

【村田副会長】

それ以外は灰塚支部。灰塚は南部だから、南部の12町内。

【石野委員】

南部に中通町も入る。中通町と金谷、神山が入る。

【村田副会長】

それで14町内。そう線引きされている。

【高宮会長】

高田駅前交番がない時に、飯駐在所があった。灰塚駐在所は今もある。大貫、平山地区は飯駐在所の担当エリアに入っている。ただ、児童は高田西小学校に行っている。高田西小学校の管轄は、灰塚駐在所になる。私は飯防犯協会の会長を受けているが、この間も高田西小学校に行き、校長先生等々と会い、先ほど事業報告の中でも子ども達の自転車教室など色々あったと思うが、そういったところに飯支部にも声をかけてほしいと話してきた。飯支部の子ども達が高田西小学校に来ている、変則的になっているのが現状。

【村田副会長】

防犯協会も飯地区と灰塚地区に分かれている。

【石野委員】

ディスカッションに当たり、団体から活動の概要みたいなものをもらえないか。厳密なものでなく、「私たちはこんな活動をしている」という程度でよい。それがあれば話しやすい。

【高橋委員】

各団体の方から、例えば「活動内容によってこういったことに苦労している」など、悩みごとを聞くのか。そして我々はどうすればよいか。それを聞いて、アドバイスをすればよいのか。聞いた後はどうなるのか。

【石野委員】

地域協議会で取り上げられる題材に対しては、今後自主審議に持っていくかどうか、という形になってくる。

【高橋委員】

運動普及推進員や食生活改善推進委員は、市から委託されている部分が多少ある。我々からあまり「こうしてほしい」とは言えない。団体によりけりだが。

【齋藤委員】

8団体に案内を出す、どれくらい参加するか分からない。かと言って、全部出して、改めて検討するため、次回に回してほしいとなるのも。とりあえず1回やってみてはどうか。8団体にできるだけ来てもらうようにする。当日は、とりあえず順番に聞き、その後意見交換を行う。実際にどうなるかは分からないが。分からないことに対して、「こうしよう」「ああしよう」と話すのなら分かるが、ここで「ああでもない」、「こうでもない」と話すのは疑問。

【高宮会長】

課題を話し合ってもらい、その中に我々金谷区地域協議会として何かお手伝いすべきものがあるかないか。「こうしよう」「ああしよう」という話にはならないと思う。

【高橋委員】

今日の議題は「他団体や他地域との連携について」だが、「連携」とはどういう意味か。

【高宮会長】

意見交換会では、地域協議会として何か手伝うべきことがあるかないか、そういったことを聞きたい。というのは「他団体や他地域との連携」を選んだ委員が一番多かったから。

【高橋委員】

そもそも「連携」とは何か。議題になっているため聞いている。色々聞き、こちらから助言やアドバイスするのかというと、そうでもない。話を聞いてもはっきりしないため、聞いている。「連携」という言葉に悩まされる。

【石野委員】

「連携」というより「交流」では。

【高橋委員】

「連携」ということは、他の人の意見を聞いて、一緒に何か仕事するということ。

【吉村委員】

平成29年度第12回地域協議会の資料No.2「金谷地区の地域課題について これまでの主な意見一覧（最終案）」の筆頭に、「9. 他団体や他地区との連携」とある。その中に箇条で整理してあるが、これを総称して「連携」というのか。ここで初めて「連携」という言葉が出てきた。どこから出てきた言葉か分からない。

【高橋委員】

先ほど他の団体の意見を聞いて助言したり、何か手伝いをするのかというと、そうではないと言われたが、ここの「連携」とは何か。

【石野委員】

手伝いをしないということではなく、サポートできるなら一緒に考えようということ。事務局が「連携」とつけただけで、「交流」にすればよい。

【高橋委員】

「連携」とは、一緒に仕事をするることである。

【吉村委員】

他団体からの意見や出てくる話の内容により、動き方が変わるのだろう。困っていることに地域協議会で何とか力になれるかもしれないとなれば、一緒に進めるのか、地域協議会で策を練るのか、ということ。それが第三者から見れば、一緒に仕事している、問題に向かっているということになる。それがいわゆる「連携」になるのでは。

【高橋委員】

先ほど、一緒に仕事はできないと。

【高宮会長】

そうではない。金谷区の自主審議事項として、市長に意見するだけではなく、地域の中で対応すべきもの、地域内で解決に向けた活動ができるかどうか。

【高橋委員】

それは無理。地域協議会でそういった活動はできないと聞いている。地域協議会で問題を取り上げて市に意見はできるが、地域協議会で活動はできないと思う。事務局に意見を求める。

【佐藤センター長】

地域協議会は市の諮問機関であるため、活動はできない。ただ、この中で協議して出た結論を、例えば金谷区他団体へ提案することはできる。

【齋藤委員】

「連携」という言葉は分からなくもない。金谷区地域協議会の中で、色々な問題に横断的に取り組む。「連携」というのはどうかというところまでは踏み込んでいない。他団体や他地区との協議といった意味合い、スタンスでいけば十分。意見交換会もそう。他団体との話し合いを企画して、具体的な協議ができるだろう。聞いた意見に対して、我々が色々と考え、相手の団体に提案できるかもしれない。初めてであるため、難しく考えても仕方がない。出てきたことに対して、皆さんの知恵をもって少しでも役に立てればなど。そういう意思をもって他団体とやりとりすることよい。

【山口委員】

こういった会合を設けるとしたら、相手の団体からは我々に何かを期待するような意見が出る。日頃の悩みといったものは出ない。その中で地域協議会で解決できないかといった意見が出ると思う。齋藤委員のとおり、それに対して我々で考えてあげるのが今回の目的ではないか。我々は予算を配分するテーブルであるため、団体からは恐らくそういった要求が来ると思う。会合を開き、どんな意見があるのか聞いてみてから。ここでどうこう言っても仕方がない。

【高宮会長】

以前も直江津地区で、危険箇所について実際話が出てきて、地域協議会委員がグ

ループに分かれ、現場検証したニュースが載っていた。そういうことでも地域協議会として支援ができるのではないかと思う。

「他団体や他地域との連携」については、皆さんから多数賛同を得ている。皆さん各々の考え方があると思うが、それに沿っていく。最初からどうかというものではない。

【齋藤委員】

議題（１）は以上で終了してよいのではないか。

【石野委員】

あとは三役に任せる。

【齋藤委員】

それに対してまた説明などがあれば、お願いしたい。

【高宮会長】

議題（１）は以上で終了することでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

6月の会議日程について提案がある。6月の地域協議会は、6月20日（水）の地域団体との意見交換会終了後に開催してはどうかと正副会長で考えた。このことについて質疑を求める。

【石野委員】

6月20日の議題は何か。開催する必要はあるのか。

【小林主任】

現在予定している議題は、平成30年度地域活動支援事業の審査結果の報告を予定しているが、それ以外は特にない。

【石野委員】

では10分程度か。会議は通常午後6時から始めている。意見交換会は午後6時半からであるため、議題がその程度であれば、最初に会議を行い、午後6時半から意見交換会を行えばよい。もし議題が他にもあっても、そこでしたらどうか。

【吉村委員】

賛成。通常は午後6時である。

【齋藤委員】

地域活動支援事業の話が30分以内で終われば、午後6時からの方がよい。

【高宮会長】

地域協議会を午後6時から行い、午後6時半から意見交換の場合、会議の準備としてはどうか。

【石野委員】

まだ2か月後なので、来月決めればよいのではないか。

【村田副会長】

参加団体の方は、少なくとも10分か15分前に来場する。ここで会議をしていて、20人にどこで待ってもらえるのか、という物理的な部分もある。会議をしているのに入ってもらい、午後6時半まで待ってもらえるのか。

【石野委員】

意見交換会が何時に終わるか分からないため、早めにやった方がいいのではないかとということ。

【小林主任】

地域協議会と意見交換会を同じ会場で行う場合、場面転換が難しい。他の会場が空いていれば、地域協議会の後、場所を移して意見交換会を行うことが可能であるため、別の会場が空いているかを確認したい。

【石野委員】

意見交換会は机の配置などはどんな形を考えているのか。同じ形態の中でできるなら、一つの会場でよいのでは。

【高宮会長】

1団体から2～3名出席すると、委員を含めて40名程度になる。「口」の字型がよいか、他の形がよいかは、これから検討しないといけない。事務局から話のあった会場が空いているかの問題もある。

【石野委員】

この会場で工夫して行えばよいのでは。

【高宮会長】

来た人たちはどこで待つのか。

【石野委員】

それは「ちょっとお待ちください」と言うしかない。6時半からなのだから。

【吉村委員】

名札がつく。準備でバタバタしたくない。せっかく来てもらっているのに、誰か分からないのは失礼である。

【石野委員】

それまでに名前を聞いて、全部作るのか。

【高宮会長】

そうでないと、どの人か分からない。

【齋藤委員】

座席の配置などで難しいかもしれない。事務局の考えでよいのでは。地域協議会は後にやるわけだから、時間が9時半くらいになれば、借りる場所の時間もあるので、そうなったら通常の第4水曜日にすれば。

【石野委員】

2か月先なので、次回までに事務局と検討してもらえばよい。

【土屋委員】

意見交換の形もまだ決まってない。今ここで決めるより、それが決まってから検討したらよい。まず6月20日に意見交換を行うことが決まったので、意見交換の形をよく検討してもらえばよい。

【高宮会長】

最悪の場合、地域協議会は別の日になってもいいということになる。どうなるかわからないが、会場がいっぱいになってしまうということもある。それでもよいということか。

【土屋委員】

私がそうというわけではない。まだ、意見交換の形が決まっていない。40人が座れるような形にするのか。前の方に委員が座り、後ろの方に意見を言う人たちが座るのか。

【高宮会長】

それはまだ決まっていない。とりあえずは8団体に2～3名の出席をお願いしたいと依頼を出すことだけである。こちらから意見交換をしようと呼びかけているのに、団体の方が待たされるのは、気分が良いものではない。

【石野委員】

だが会議の開始時間は決まっている。それは承知の上だと思う。

【高宮会長】

6月の会議日程については、次回決めることでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

—次第5 事務連絡—

【高宮会長】

次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

・今後の日程

第2回地域協議会：5月16日（水） 福祉交流プラザ 第1会議室
時間は未定

第3回地域協議会：5月24日（木） 福祉交流プラザ 第1会議室
時間は未定

第2回、第3回の内容は地域活動支援事業の審査・採択

金谷区の地域団体との意見交換会：

6月20日（水）午後6時30分～ 福祉交流プラザ 第1会議室

・配布資料

上越市地域活動支援事業 事業評価報告書（はだしの会）について

板倉区意見書写し

創造行政研究所ニュースレター

【小林主任】

今年度地域活動支援事業の受付状況について説明する。現在提案書を受付けてい

る事業が5件。提案を前提に提案書の書き方について相談を受けている事業が4件。
提案したいと申し出ている団体が1件。合計すると10件。

【村田副会長】

差し支えなければ、補助金の金額の合計を教えてください。

【小林主任】

今の段階では金額は答えられない。

【高宮会長】

事務局の説明について、質疑を求める。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。